

古川久 ふるがわひさし

能談學者。

明治四十一年一月二十日愛知縣名古屋中生

れ、平成八年歿（一九一九）。幼名久太郎。聖名ルカ、筆名高宮久太

郎。大正十五年愛知醫科大學豫科に入學、石田元季の俳諧史を聴講し

て爾來師事する一方、卒業後文科の轉じて昭和七年東北帝國大學法文

學部國文學科卒。十年決定版『漱石全集』總索引作製に従事（第十九

卷・昭和十一年十月十日岩波書店）。次で雑誌『謠曲界』、『觀世』、

『改造』に能樂關係論文發表。十七年松本高等學校教授、戦後宇都宮

大學教授、東京女子大學教授、東京農工大學教授を歴任。この間、新

編決定版『漱石全集』注解を擔當（全二十四卷・昭和二十一年五月一

十八日—二十一年十月十一日岩波書店）し、『阿部次郎全集』の編輯

委員となる（全十七卷・昭和二十五年—四十一年笛川書店）。妻妙子

は國文學者藤井乙男（號紫影）の七女。

著書に『南洋景觀』（高宮久太郎名、昭和十五年十一月十五日八雲書

林）、『狂言藝談 野村万藏、風書』（昭和二十一年十一月二十日生活社『百

本叢書』）、爲永春水作『梅曆』全二冊（校訂、上・昭和二十六年五

月五日、下・十一月二十六日岩波書店『岩波文庫』）、『夏目漱石一

仏教・漢文學との關係』（昭和四十三年七月一日豊友会教団事業局）、

『くちなしの花』（昭和四十四年一月二十日古川久先生還暦記念出版

の集まり編）、『菊豆腐』（昭和五十五年四月二十一日古川久先生古

稀祝賀出版の集まり編刊）等。



くちなしの花

古川久

菊豆腐

古川久